

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270102777		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホームモン・サン西山		
所在地	長崎県長崎市西山1-2-7		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果確定日	平成31年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270102777-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270102777-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年11月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎週木曜日にはとくし丸(移動型スーパー)が来ており、御家族様の負担軽減、入居者様の社会参加や外部との繋がり、地域住民への貢献している。また、週1回ユニット別のドライブも行っており、外出支援にも力を入れている。  
母体の病院との連絡は24時間体制で取れる為、入居者様の熱発、体調不良時には随時連絡を取っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人理念の「Cool Life Together めざせ100歳」医療・介護・福祉の一体的な提供、を念頭におき、「楽しく！優しく！元気よく！」と大変わかりやすい文言をグループホームの理念としている。医療法人を母体とし、緊急時等にも連携が図れ、安心で安全な暮らしができています。4つの委員会も積極的に活動が成され、身体拘束をしないケアに関しては法人全体で取り組んでいる。管理者と職員間の関係も面談等で、管理者から職員へ一方的ではなく、職員の意見も聞く体制をとっており、管理者と職員の信頼が構築されている。介護計画は支援記録と連動され、日々の支援に落としこまれている。食事も入居者が下ごしらえの段階から関わっており、食べる楽しみだけではなく、作業意欲へと繋がっている。外出が困難な入居者のために、毎週1回の移動販売の車が来て、自分で買い物ができるという楽しみになっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	モン・サンの理念である「楽しく、優しく、元気よく」とユニット理念である「安心して過ごせる笑顔いっぱいのフロア」を共有し、実践に繋げている。	理念は設立当初理事長が作り、年に1回の法人やグループホームの決起集会において再確認を行い、周知や見直しを図っている。大変わかりやすい理念と、各ユニット毎の目標も掲げ、入居者も職員も楽しく過ごせるようにと、理念を念頭におき実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ参加しており、レクリエーション地域交流委員会が中心となり、自治会の作品展や年末の夜警に参加している。	自治会の行事には、年末年始・お盆等積極的に参加し、密な交流が図れている。毎週1回グループホームに来ている移動販売のどくし丸も、地域の方々にも利用してもらえるように呼びかけをしている。中学生の職場体験やサポートリーダー養成研修他、ボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域行事の参加で地域との交流は出来ている。平成30年度は偶数月に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議にて日々の取り組み状況を報告し、理解して頂ける様に努めている。	運営推進会議には、自治会長や民生委員が毎回参加している。会議では事業報告・入居者状況・行事・事例報告が行われている。独居老人の対応等地域の課題や意見要望を皆で検討している。地域包括支援センターからは、災害時に休憩室開放や備蓄等のある避難場所としての提案が出ている。	運営推進会議への家族の参加に関して、平日であったり時間帯によるものと思われるが、家族の参加が全くない。グループホームの日々の取り組みや、入居者への思いをわかって頂くためにも、家族の参加を促す工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政より協力依頼があれば認知症サポートリーダーの施設見学等の受け入れを行っている。	市町村とは管理者が窓口となり、入居者の介護保険関係の手続きを行っている。また、地域の介護福祉に関する問題等も確認している。運営推進会議においても、情報提供を受けている。市町村とは連携を図り、サービスに活かすよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」を設立し、職員1人1人の意識を高める様、定期的に勉強会を行い、意見交換を行っている。	身体拘束の標語を職員より公募し壁面に掲げ、日々念頭におくようにしている。4つの委員会があり、その中の身体拘束・虐待防止委員会が毎月会議を行い検討している。法人全体でも接遇や身体拘束廃止に関する研修を行っている。スピーチロックについても理解し、言葉の使い方にも留意していくように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待防止委員会を中心とし、虐待を未然に防ぐ為に日頃の職員同士の声掛けに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中には後見人制度を利用されている方もいらっしゃる為、事業所内において権利擁護に関する研修は行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明に関しては契約書、運営規定、重要事項説明書を用いて管理者が行っている。不安や疑問については電話でも気軽に相談できる様に取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。月一度の全体会議にて各フロアの事業報告書の記入を行い、全体で把握する様に努めている。	家族とは面会時やケアプラン更新時などに意見要望を伺うようにしている。玄関には意見箱を置き、行事への参加の声掛けも行っている。いつまでも自分の足で歩けるように運動を増やして欲しい、との要望には、理学療法士と連携を図りスポーツレクや散歩のプログラムを実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をフロア会議や委員会で話し合い、意見をまとめた上で運営者や管理者へ伝え、提案を発信する機会を設けている。	毎月行われるフロア会議で出た職員意見をリーダーが管理者へ伝え、また管理者も職員へアンケートをとり意向の把握を行っている。管理者から職員へ一方的ではなく、職員の意見も聞く体制をとっており、管理者と職員の信頼が構築されている。年に3回法人理事長との個別面談も行っている。外部研修へも職員が自ら選べるように、情報を掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	数年前から能力開発面談を開催し、年間目標の設定、社会労務士や代表者、管理者との面談を行い、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人内の研修があり、職員1人1人の意識向上やスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に法人内研修や勉強会が実施されており、積極的に参加する職員も増えている。他事業所とも交流もあり、花見や夏祭りなど行事参加も行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困り事、不安な事など御本人様の言葉をよく聞き取り、今後のプランに反映させ安心して生活して頂く様に支援していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時や電話などで施設に対する要望を伺うなど遠慮なく言える環境・関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談を行い、その際に情報収集をしている。今後の支援やサービスについて本人の意向や目標を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の人権を尊重し、各々が出来る事には意欲的に取り組んで頂き、役割分担を実感して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が面会に来られた際には意見や要望をお尋ねし、相談しながら一緒に支えていく。また、面会が困難な場合は電話にて連絡し、良い関係を築くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の要望があれば帰宅支援を行っている。また、知人や友人が来られた場合には良い雰囲気作りに配慮している。	入居時の生活歴や、日常の支援の中でその入居者の意向と課題のアセスメントを行い、生活習慣や馴染みのものとの関係性の継続に努めている。友人の面会であったり、行きつけの美容室への送迎を支援している。孫の写真や、亡きご主人の遺影を飾ってある方も居る。前職を懐かしみ、かまぼこやケーキ作りの時間を設け、楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでのレクリエーションや合同でのレクリエーションなど行事に参加して頂き、孤立しない様に交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設に移られた場合でも再入居される場合も多い為、在所中の記録等は保管をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の行動や会話より御本人様の希望や意向を汲み取り、出来る限り添える様に努めている。また、困難な場合は御家族様と相談し検討している。	日々の支援の中から思いを汲み取るほか、入居者が楽しい生活を送ることで自分の意見や意欲を出せるよう、行事や外出等の機会を多く作っている。また、毎朝コーヒーや紅茶を入居者と職員と一緒に飲む時間を設け、リラックスした雰囲気を入居者の思いを聞く工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーには十分配慮し、日常会話の中から御本人様のこれまでの生活環境等を聞き取り、情報の収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日頃の様子や状態を常に把握する様に努め、変化が見られた場合には全館の職員で送りを行い、情報の伝達を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がモニタリング、アセスメントの記録を行い、今後の目標に関しては御本人様と御家族様より意見と要望をお聞きし、介護計画作成に役立てている。	介護計画では課題(ニーズ)、長期目標、短期目標を設定し、さらに短期目標を具体的な支援内容まで落とし込み、チェック項目としている。日勤の職員が個人カルテに短期目標の項目の実施状況を毎日記入しており、介護計画から実践までの連動ができています。また、6ヶ月に1度の介護計画の見直しの前に3ヶ月で一度現状の振り返りを行っており、計画と実践の確認がしっかりと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を個人カルテに記入している。また、業務日誌や連絡ノート、ヒヤリハットノートを通して職員間の情報共有に努め、今後の介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	解決すべき課題に関しては御本人様や御家族様の意見を聞き、満足して頂ける支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回自治会の方との運営推進会議を行っており、年始の作品展に参加する等している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様は定期的に医療機関の受診を行われており、連携体制が整っている。	医療法人が母体の法人なので医療連携という観点から、基本的にかかりつけ医は入居時に法人内の病院である清水病院となっている。清水病院からは月2回の訪問診察があり、ほぼ全ての入居者が個人に合わせた診察を受けているので、法人内で連携して健康状態の変化を把握することができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外来診察、訪問診察、退院後訪問指導など定期的に受けられており、体調の変化があれば相談し、適切な受診や看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった際には、送り表に正確な情報を記入し、情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携を行い、御家族様と話し合いながら今後の方針を決め、支援している。	現在、看取りは行っていないが、入居時に重度化した場合の対応について入居者とご家族に説明を行っており、重度化した際に再度、職員と家族と医師で今後の方針について具体的な話し合いを行っている。看取りについて関心がある職員が多く、長崎市主催の研修を受講申し込みをするなど今後を見据えた対策を始めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会や防災設備点検委員会が中心となり、緊急時に備えて応急手当等の定期的に勉強会や訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を行っている。年に2回は消防立ち合いの元訓練を行い、職員の意識向上を図っている。	避難訓練は年に2回行っており、消防署参加のもと実際に避難する訓練と図面を見ながらの避難経路の確認を各1回ずつ行っている。また、全職員対象で年に一度の筆記テストを実施している。備蓄は30名3日分の非常食を備えており、来年の2月頃に非常食を実際に食べる体験をする予定である。地域の自主防災組織に登録し、地域の連絡網に入るなど地域との連携を取っている。	地域の自主防災組織との連携の在り方について、さらに協力体制を強めたいとの話だったので、今一度地域の防災組織との連携体制の再見直しに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に人格を尊重し、個人に合わせた言葉掛けを行っている。個人情報については守秘義務がある為、特に気掛けている。	「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」を中心に職員から身体拘束についての標語を募集し、選ばれたものを掲示して職員の啓発に取り組んでいる。また年に一度、法人全体の接遇研修をANAより講師を依頼して行っており、入居者への接し方について意識を高めている。個人情報については、入所時に同意書をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から御本人様の気持ち、思い、希望を見つけ出し、それに添える様に努めている。言葉に出さない方は表情や行動を観察し、言葉掛けを行い、良い環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人様の意思を尊重し、気持ちに添える様にお話を聴き、居心地よく生活して頂ける様に日頃かから気掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容に来て頂き、散髪して頂いている。御本人様と一緒に好みの洋服を選ぶなどしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立によってはホットプレートを使い、入居者様同士で調理をする機会が増えている。	献立は法人の管理栄養士が作っており、食材が毎日届けられている。リビングの横にある台所は広々としており、職員と入居者が作業を分担して下ごしらえから調理を行っている。食事形態はきざみ、おかゆ、ミキサー食に対応している。入居者の希望があった場合はユニット毎で献立を変更して対応し、年末のおせちづくり、誕生月の御祝いケーキ、かまぼこ作りなどの様々なイベントが入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほとんどの方に毎朝ペットボトルにお茶を入れて提供している。飲み終わったら補充をする様に気掛けている。また、お茶以外にもヤクルトや牛乳を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの言葉掛けは必ず行っている。御本人様の能力に合わせて、出来ない方には職員が介助に入っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンを把握し、誘導解除が必要な方にはトイレでの排泄を促している。排泄の失敗した際には自尊心を傷つけない様な言葉掛けを行う様にしている。	個人カルテに排泄時間と量を記録して毎日の排泄パターンを把握し、バルーン利用の入居者については尿量の記録を主治医へ伝え連携を図っている。食事の前に排泄誘導する際は耳打ちや1対1の時に促すなど自尊心を傷つけない配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	口渇の訴えが少ない方には特に水分補給に配慮している。便秘や下痢が続く方には医療機関に相談し、その都度対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には御本人様の体調を確認し、各々のタイミングに合わせてゆっくりと入浴して頂いている。入浴を断られる場合には無理強いせず、時間を空けたり、職員が交代して対応している。	入浴は月・水・金の週3回行っている。入浴の前日から入居者と一緒に着替えの準備をしたり、当日の朝から入浴の予定を伝えておくことで入居者の心理的負担を軽減し、入浴を受け入れやすくする配慮をしている。断られた場合は部分浴への変更や時間をおいたり職員を変えて促したりして対応している。昨年5月にリフト浴を導入し、麻痺がある方などもゆったりと浴槽に入ることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で好きな時間に自由に休んで頂いている。日中長い時間眠られている際には、ホールにお誘いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に1度定時薬が処方された際には、処方箋の確認を行っている。また、体調の変化があれば医療機関への連絡やかかりつけ薬局へ確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて、調理の下ごしらえ、盛り付け、洗濯物畳等役割を持って頂く様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1回移動型スーパーを利用されている方も多く、職員が付添い、お買い物をされている。	週1回移動型スーパーの「とくし丸」がグループホームの駐車場に來所し、入居者のほぼ全員が職員付き添いのもと利用している。年に2回の法人合同ドライブに行く他、ユニット毎の外出支援では日々の支援の中で各地域のパンフレットを見ながら話をする事で入居者の希望を把握している。また、半年に1度自宅へ様子を見に行く入居者の支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の能力に応じてお金の管理が出来る方は御本人様で管理して頂き、出来ない方は事務所で預かり、必要時にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の希望があれば投函等の支援している御本人様宛の郵便物は直接お渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全性を考え、ホール内に障害物が無い様に努めている。また、季節な花を飾り、居心地の良い環境作りに努めている。	廊下やリビングの壁には手作りの季節の飾りつけや行事の写真が飾られており、家庭的な雰囲気である。リビングには大きな窓があり、町の景色を見渡すことができ、ソファや小上がりの畳でゆったりくつろげる空間となっている。温度と湿度にも配慮しており、冬は加湿器を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファは御本人様の好む位置に座って頂ける様になっている。入居者様同士の相性を考慮し、座席配置は配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様が使い慣れた家具等は設置し、安全性も考えながら、安心して過ごせる環境を目指している。	入居者は家から馴染みの家具や家族の写真などを持参し、好きなスポーツ選手のスクラップを飾ったり、仏壇の代わりに写真にお供えをしたりしている。居室にはグループホームでの書道作品や職員からの誕生日祝いの寄せ書きなども飾っており、入所前後の生活感が共存した本人らしさが出る居室となっている。空調の温度は事務所で管理しており、入居者の希望により職員が調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、移動はスムーズに出来ている。歩行が不安定な方には隣に職員が付添い、歩行の介助を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102777		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホームモン・サン西山		
所在地	長崎県長崎市西山1-2-7		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果確定日	平成31年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270102777-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270102777-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎週木曜日にはとくし丸(移動型スーパー)が来ており、御家族様の負担軽減、入居者様の社会参加や外部との繋がり、地域住民への貢献している。また、週1回ユニット別のドライブも行っており、外出支援にも力を入れている。  
母体の病院との連絡は24時間体制で取れる為、入居者様の熱発、体調不良時には随時連絡を取っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「楽しく！優しく！元気よく！」を日々心掛け、実践に繋がっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での繋がりにより自治会の活動にも参加、協力し、交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議はフロアーにて行われており、入居者様の生活の様子を見て頂き、理解して頂く様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、入居者様の状況や取組み、今後の予定等を報告し意見を参考としている。また、地域の人の相談を聞く事もあり、意見交換の場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターからの参加もあり、会議を通じて情報を伝え、協力関係を築いていくよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設立しており、職員全体の意識統一に努め、身体拘束等をしないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を中心に些細な事も取り上げ、未然に防ぐように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて知識を得ている職員もいる。事業所内でも後見人制度を利用されている方もいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットや契約書、重要事項説明書等を用いて管理者が説明し、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置き、ユニットでも気軽に要望や意見を言って頂ける様に関係作りを行い、要望・意見が出た際には対応策を検討出来る様に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員の意見はユニットごとに話し合い、リーダーより管理者に提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力開発シートにより年間目標を設定し、講師、代表者、管理者を交えて面談し、評価を行いながら向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて月に1度研修が行われている。外部の研修については受講希望者は参加し、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会に入っており、研修会を通じ情報交換を行っている。また、他事業者の催し物にも参加し、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、不安が除けるように耳を傾けながら安心した生活が出来るよう支援に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様にも情報を教えて頂きながら、要望もお聞きし、信頼関係が出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報や御本人様の意向も取り入れながら、初期に必要なケアを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で入居者様の意思を尊重し、協力して頂ける所はお願いし、共に支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が来られた際にはゆっくと面談出来る様に配慮し、また、日頃の入居者様の様子もお伝えし相談しながら一緒に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様の協力もあり、馴染みの美容室や法要等にも外出されている。知人・友人の面会時には雰囲気気を配りまた来て頂ける様に呼び掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係に配慮し、レクリエーションや家事手伝い等を通じて協力しながら、お互いに認め合えるような環境を提供している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に相談して頂けるように気掛けて対応している。他所でお会いした時も言葉を掛けて様子をお聞きしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の入居者様に担当職員を配置して日常の会話や行動により希望や意向に沿った生活が出来る様に支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を元にプライバシーに配慮しつつ、御家族様からの聞き取りや御本人様からの会話により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人カルテに1日の生活の様子を記録しており、体調や様子の変化があった際には申送り及び記録を確認し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時にはケア会議を行っており、担当職員を含めそれぞれの意見が反映されるプラン作成を心掛けている。また、御家族様参加のケア会議も行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテに記録する際には介護計画書に基づいて記録を行っている。御本人様の変化やケアの変更が生じた場合は情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様や御家族様の要望に対し、管理者と話し合いながら柔軟な支援が出来る様に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や自治会の協力の元、入居者の理解を得て交流の場がある時は参加し、入居者様が安心・安全に暮らせる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院がかかりつけ医となっている。月2回の訪問診察もあり、日頃から当事業所と病院の連携も取れている。また、病状により専門医を受診できる様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的の訪問診察や退院後支援を受けられており、変化が見られる際には相談しながら適切な健康管理や医療的支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には送り表にて情報交換を行い、入居者の状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて医師から病状説明を行い、御家族様と話し合いながら当事業所として出来る事、出来ない事を理解して頂き、職員は情報共有しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会が中心となり、定期的に心肺蘇生、AEDの操作法の実践研修を行っている。また、消防署の協力も得て、立会の元研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災委員会が中心となり定期的に火災訓練を行っている。昼、夜を想定して職員の動きも確認し意識向上を図っている。また、地域の自主防災組織の一員として連携も取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し、言葉掛けには十分配慮を行っている。適切ではない場合は互いに注意出来る様に気掛けている。プライバシーについては御本人様が自分で話される事以外は漏れない様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動を観察し、いつもと違う表情や行動が見られる場合には声を掛け話をしていく。日頃から信頼関係作りを心掛け、相談しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、入居者様の希望があれば優先し対応している。希望が無ければ入居者のペースで自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは入居者様と共に行い、希望に添える様に支援している。散髪は訪問美容にて希望者に対応し、身だしなみも整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを貼り出し、メニューの見ながら毎食楽しみにされる方も居る。配膳は職員が行うがテーブル拭きはお願ひする等役割を持って頂いている。食事中は音楽を流し他者とお話ししながら食卓を囲まれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	テーブルの上にお茶を置き、自由に飲めるように声掛けや提供を行っている。食事摂取量は記録し、少ない入居者様にはバランス良く摂取する様に声掛けを行い、能力に応じて食形態も配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の能力に応じた支援を行っている。介助が必要な入居者様には見守りを行いながら、出来るところまで自力で行って頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後の排泄の声掛けや確認を行っている。誘導支援を行っている入居者様に対しては必ずトイレに座って頂き、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事摂取量に配慮する事で予防に努めている。便の状態によっては医療と連携を取りながら対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には御本人様の意思を確認し、意思に応じたタイミングで入浴して頂いている。また、入浴日であることをフロア内の掲示板にてお知らせしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動については利用者に強要せず自由に過ごして頂いている。昼間に休んでいる方に対しては夜間帯に安眠出来る様に短時間の休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時処方時には処方箋を確認している。入居者様の体調変化時には薬の副作用も念頭に置きながら医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な調理や洗濯物畳みなどの家事のお手伝いをお願いし、役割を持って頂く様に支援している。周りの方と協力し、楽しみながら作業されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する行き先があれば同行し、叶う様に支援している。週1回の移動型スーパーが来ている為、おやつ等の購入も以前に比べ気軽に出来る事から入居者様の楽しみにもなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっている。買い物の際には職員が同行し、支払いの際のお金の受け渡しは御本人様に行って頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話はいつでも掛けて頂いている。また、手紙が届いたら本人様にお渡しし、時には代わりに読んで内容を分かりやすく伝える事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度にも気を配り、居心地の良く過ごして頂ける様に配慮している。また、ゆっくりとくつろげる様にソファの位置も考慮し配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用し、気の合う方同士、合わない方同士距離を保つようにしている。お話ししたい方同士が近くに行き、楽しく過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に置かれている小物や家具については御本人様や御家族の趣向にて置かれている。その方に合った落ち着いた居室環境となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の変更は行わない為、皆様居室の位置は理解されておりスムーズに移動されている。また、歩行が不安な方は手すりを使用して頂く様に声掛けを行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102777		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホームモン・サン西山		
所在地	長崎県長崎市西山1-2-7		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果確定日	平成31年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270102777-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270102777-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎週木曜日にはとくし丸(移動型スーパー)が来ており、御家族様の負担軽減、入居者様の社会参加や外部との繋がり、地域住民への貢献している。また、週1回ユニット別のドライブも行っており、外出支援にも力を入れている。 母体の病院との連絡は24時間体制で取れる為、入居者様の熱発、体調不良時には随時連絡を取っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく、優しく、元気よく」の理念を具体化し、実勢に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催、自治会活動に積極的に参加し、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて取組みを理解しやすい様に報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施されており、意見に関して考慮し、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報提供を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は無く、人権を尊重しながらケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	様々な研修に参加し、虐待や身体拘束への危機感を持ち委員会を中心に防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方がおり、後見人と御家族様を上手く分けながらケアに関する相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に明示されており、十分な説明が行われた上、理解と納得して頂く様に配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の入り口にご意見箱を設置、ホームページやSNSなど利用して運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間3回の面談をはじめ、職員同士また管理者への相談はしやすい環境となっており、反映もされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、各階リーダーとの連携が取れており、個々の状態が把握、評価に繋がり、向上心へと繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員の能力に応じて、研修の受講などを促しており、興味のある研修には積極的に参加する様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の定期的な研修会は行われており、サービスの質の向上に繋がっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様からの訴えには親身に聞き取りを行い、こちらから具体的に質問をしたり、様子観察を行い、意向を引き出しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時、御家族様の意向を聞き、反映している。不安が少しでも軽減出来る様に気持ちに寄り添い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所する際に御家族様や御本人様からの意向を聞き取り、初期段階に必要なと思われる支援を考え、取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人一人を尊重し、支援を「させて頂く」という気持ちを持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には情報の共有に努め、一方的にならない様に要望・苦情など気軽に相談して頂ける様に日頃から関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に生活歴を把握し、御本人様の状態によってはドライブのコースの中に馴染みの場所を組み込んだり、馴染みの来客者にはスムーズに面会出来る様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を大事にした上で、入居者様同士の関係を把握し、色々な場面で配慮しています。ユニットでのレクリエーションでは全員に声掛けし、楽しい雰囲気事前に関わり合いが持てる様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には今後も気軽に相談できる関係であることを伝え、必要に応じて支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々の会話や態度から希望や意向を汲み取る様に気掛けている。困難な場合には御家族様からの情報提供をお願いし、ケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努め、入所後の関わり合いと知った情報に関しては職員で共有し、サービスの利用、ケアの質の向上に繋がらないか検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床後バイタルチェックにて確認、体調の変化時には情報を共有し、様子観察や医療機関への連絡等対応している。その日の体調に応じて支援方法を合わせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様の意向を重視し、担当者の意見を中心にプランを作成。ケア会議にて支援の統一を図っている。必要に応じて医療機関(主治医、PT、医療連携看護師)に意見を求めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテに日々の様子を記入し、ケアの実践の記録になっている。気づきやフローノートに記入し、職員間の情報共有や意見交換に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様からの要望に対しては柔軟な対応をしている。対応が困難な場合は事務所を含めた全体でとらえ、実現できる様に動いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の作品展やふれあいセンターの利用、くち見学ドライブ等社会の一員として参加し、楽しむ事を入居者様に提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察、看護師や薬剤師が訪問している。必要に応じて他医療機関への受診付添いを行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気づきは医療連携看護師や母体の病院看護師と通して、医師の指示が受けられる様な体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった際には送り表に詳細を生活状況を記入し情報共有を行っている。退院時にはサマリーにて治療や入院時の様子が知ることが出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携にて病状説明も随時行われ、終末期に向けて御家族様、病院、ホームの相違が少なくなるように配慮している。日頃から情報共有を行い、方針の理解を求めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で応急処置の勉強会が行われており、消防署の立会いの元訓練を行い、再度確認が出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災設備点検委員会を中心として色々な状況を設定し、毎月防災訓練を行っている。確認の為全職員にテストも実施。当事業所も一時避難所として登録しており自治会にも啓発している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには十分注意を払い、人格を尊重している。プライバシーに関しては、御本人様の苦痛とならない様に守られている。また、写真の掲示や掲載には同意書を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心掛け、御本人様の思いを知る事に努めている。日頃から表情や行動を読み取り、何を希望しているのかを感じ取れる様に信頼関係を築いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に束縛される事なく、自由に過ごさせている。希望があれば可能な限り支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択出来る方は御本人様の意思を尊重し、介助が必要な方には相談し、確認しながら身だしなみを整える支援をしている。衣替えは職員と御本人様が一緒に行い、管理している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては調理の手伝いやおしぼりの準備など積極的に参加される方、お願いする方とそれぞれの関わり方で行われています。また、献立を掲示、楽しみを持てる様に配慮しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃から記録を取り、食事の摂取状況によっては介助を行ったり、補助食の提供を行っている。水分補給は入居者様の好みや習慣に合わせて摂取出来るように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの職員の能力に応じて、口腔ケアの対応が出来ており、状況によっては歯科往診をして頂き、清潔が保持できている。また、歯科医や歯科衛生士からの指導もあり、気軽に相談出来る環境になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄パターンの把握から失禁を減らす様に入居者様に合った誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事摂取状況を把握した上で、排便状況を確認し、水分摂取を促したり、下剤の調整等医療機関に相談するなど入居者様毎の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員が平等になる様に配慮し順番を決めている。入浴時は1対1で入浴支援に取り組み、急かさな様配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様毎の習慣に合わせて、自由に休息が取れる環境にしている。夜間の安眠の為、日中の生活リズムが乱れない様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬が来る2週間に1度のペースで処方箋のチェックを行っている。内容を確認、副作用の把握、体調の変化等あれば医療機関と連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意向を大事にしたケアプランを作成し、日々の支援の中に取り入れ、「その人らしさ」を持った生活を目指している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	無理のない範囲で外出希望は叶えられている。普段行けない場所へは御家族様の協力を得て、実現出来る様に働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様毎の能力に応じた管理方法を行い。支払等の受け渡しは社会生活の一環として御本人様をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様へ手紙を出されたり、御家族様から手紙や電話にて連絡を頂き、協力を得ながら支援が来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、室温等はこまめに管理が来ている。ユニットの飾り物には季節感や行事の写真を掲示し、楽しめる様に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳、食卓と自由に座れるように配置している。台所よりホール全体が見渡せる様に配置し、入居者様毎の把握・対応が来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を考慮した上で、御本人様と御家族様の意思を尊重し、居心地良い空間作りを目指している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが設置されており、御本人様の能力に応じて使用をお勧めしている。また、浴室などの案内は分かりやすい様に表示されている。		